

# 平成 26 年度外部評価委員会の評価結果について

農業関係試験場では、試験研究課題の設定・試験内容・成果の公表などを客観的かつ公正に判断し、広く県民に関われた試験研究を効率的に行うため、外部評価委員会を設置し、委員会を開催している。

平成 26 年度は一層の充実を図るため、評価委員の構成を農業関係者以外の実需、消費者等も加えて実施した。実施状況は、以下のとおりである。

## (1) 評価対象研究課題と評価方法

県単独事業の県単プロジェクト研究<sup>注)</sup>（県単プロ）を対象とし、事前と事後に評価を行う。

各課題について、「現場のニーズ」や「研究の新規性」、「必要性・緊急性」、「効率性・妥当性」、「期待される効果」など5項目について審査し、この審査結果を試験研究に反映する。

注) 技術的に目途が立った技術開発研究について、おおむね3年程度の期間で重点的に取組み実用化を目指す研究

	評価	内 容
◆新規課題 の事前評価	A	継続する
	B	一部変更して継続する
	C	継続するには大幅な変更が必要である

	評価	内 容
◆終了課題 の事後評価	A	顕著な成果があった
	B	おおよそ成果があった
	C	解決されない部分が多い
	D	成果が見られない

## (2) 平成 26 年度評価対象研究課題数

部門	県単プロ		合計
	事後	事前	
作物	0	2	2
果樹	3	2	5
計	3	4	7

(注) 野菜・花き・菌茸、畜産部門は 27 年度に実施

## (3) 外部評価委員の構成

外部評価委員については、本年度から学識経験者や農業者に加え、消費者、実需・流通関係者を委員に選定した。

平成 26 年度の外部評価委員は以下のとおり。

		所属機関・役職	氏 名
共通委員	全部門	信州大学学術研究院農学系農学部・副学部長	萩原 素之
		JA 長野県営農センター・センター長	萩原 学*
		長野県女性農業委員の会会長、松本市農業委員会	古沢 明子
		長野県栄養士会・会長	園原 規子
		長野県生活協同組合連合会・理事	両澤 増枝
部門委員	作物	(独) 農研機構 中央農業総合研究センター北陸農業研究監	渡邊 好昭
		大規模稲作経営者(後継者)	斉藤 岳雄
		農業者(株) 田切農産代表取締役	紫芝 勉
	果樹	(独) 農研機構 果樹研究所 企画経営部長	檜村 芳記
		農業者(長野市農業委員)	小山 英壽
		農業者(長野県果樹研究会青年部 元会長)	斉藤 隆幸

\* 当日欠席

**(4) 開催日程**

部 門	期 日	時 間	会 場
作 物	9月19日(金)	12:30~14:30	農業試験場会議室
果 樹		14:30~17:00	

**(5) 評価対象研究課題と評価結果**

今回の評価点別課題数は下表のとおりである。

事後評価は、3課題すべて「A」評価(顕著な成果があった)であった。

事前評価結果は、作物2課題および果樹2課題の計4課題すべて「A」評価(継続する)であった。

部門	評価点	事後評価					事前評価			
		A	B	C	D	小計	A	B	C	小計
作物	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2
果樹	3	-	-	-	-	3	2	-	-	2
計	3	-	-	-	-	3	4	-	-	4

**評価課題に対する主な提言等**

部 門	NO.	事業名	試験研究課題	主な提言等
作物	1	県単プロ (事前)	気象変動が農耕地の地力窒素に及ぼす影響評価と対応技術の開発(水田における地力窒素への影響評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの県外での成果について十分整理し、それらを積極的に活用してほしい。</li> <li>長期的視点と短期的視点を明確にし、それぞれに応じた取り組みを行ってほしい。</li> <li>倒伏、胴割れ、白未熟粒など現場で発生している問題に的確に対応できる技術の構築を期待する。</li> <li>課題名の変更を検討されたい。「気象変動が農耕地の地力窒素に与える(及ぼす)影響評価」など。</li> <li>地力窒素の発現量がいもち病の発生と関係はあるのか、検討をお願いしたい。</li> <li>基肥一発肥料の肥効の変化を明らかにしてほしい。</li> <li>成果を生産者に伝達する手法を検討していただきたい。</li> <li>クロープナビと連携したデータを提供していただきたい。</li> </ul>
	2		地球温暖化の水稲への影響評価と新品種・技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>早生で高温登熟性を向上させるのは難しいと思われるがチャレンジしていただきたい。</li> <li>これまでの県外の成果を利用して効率的な研究の展開を期待したい。</li> <li>高温に適応するため、高温に強い品種の特性といった「ものさし」づくりは重要だが、栽培現場で利用できる「ものさし」も提供できるようにしてほしい。</li> <li>用水の温度によって品質が変わるかどうか、検討してほしい。</li> <li>温暖化への対応と併せ、食味も重視した品種育成も必要である。</li> <li>温暖化に対応した品種育成において、出穂時期と害虫対策について合わせて検討してほしい。</li> </ul>

部門	NO.	事業名	試験研究課題	主な提言等	
果樹	3	県単プロ (事後)	ぶどう「ナガノパープル」、「シャインマスカット」等の短梢せん定栽培における新梢管理の省力化、品質向上のための樹勢調節技術の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>省力効果の高い技術で一定の成果を達成したと評価できる。</li> <li>樹勢コントロール技術等現場で適用できるように指針（マニュアル）を作成し、生産者に成果が伝わるような工夫をしていただきたい。</li> <li>「ナガノパープル」、「シャインマスカット」は消費者の評価の高い品種であるため、今後も研究を進めていただきたい。</li> <li>生産現場では、「ナガノパープル」の裂果問題、「シャインマスカット」の果皮色、食味の園地間のバラツキが問題となっているため、対応策を検討していただきたい。</li> <li>断根した場合の影響、土壌の違い、裂果との関連等継続して検討していただきたい。</li> </ul>	
	4		温水・熱水処理による果樹類土壌病害（紋羽病・根頭がんしゅ病）防除対策の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規性があり、優れた技術と評価する。生産者が効果的に活用できるような工夫をしていただきたい。</li> <li>機械が高価であることが問題、多目的に使用できる方法を検討していただきたい。</li> <li>今後、手軽に防除できる方法を検討願いたい。</li> <li>定植時の予防薬（バクテローズ）を使用した場合の予防率ほどの程度か。ベンレート等の薬剤効果はどの程度あるのか。それらの検討をお願いしたい。</li> </ul>	
	5		食味が優れ、主要な病害に強い早生日本なし「サザンスイート（南農ナシ4号）」の栽培技術の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤を大幅に減らせる新品種の育成とその栽培指針の確立は消費者ニーズに合致するもので評価できる。</li> <li>「サザンスイート」は他県の「幸水」と競合するため、品位を向上させる技術開発が必要ではないか。</li> </ul>	
	6		県単プロ (事前)	長野県における2040年代の気候温暖化を想定したりんご生産の実態解明	<ul style="list-style-type: none"> <li>長野県のりんごは県外でも評価が高く現場ニーズが高く、研究の必要性は高い。</li> <li>内容が多様であるため、終了時に成果がまとまるような工夫をお願いしたい。</li> <li>対照区の取り方を検討し、どの要因が影響しているか明確になるように実験計画を組立てる必要がある。</li> <li>年次変動が大きく出ることが予想される。対照区を設定するなど次につながる評価可能なデータの蓄積になるよう取り組むことが重要である。</li> </ul>
	7			気象変動が農耕地の地力窒素に及ぼす影響評価と対応技術の開発（りんご園における地力窒素への影響評価）	<ul style="list-style-type: none"> <li>作物部門では、詳細なデータが揃っている。既往の成果を整理し、活用していただきたい。</li> <li>地力窒素の発現は気象条件、土壌条件等により大きく変化するため、結果が出てから即現地に適応できるかの問題がある。</li> <li>果樹園土壌の性質は基本的に他の畑作土壌と大きな差はないと考えられるため、畑作土壌の既往の成果を活用しながら研究を進めていただきたい。</li> <li>窒素の総量だけでなく、季節変化など、必要な時期等を考慮すべきである。</li> <li>M.9 ナガノだけでなく、他の台木の試験もお願いしたい。</li> </ul>